断端陽性に対する局所療法

乳房部分切除を行なうにあたり、局所のコントロールと言う意味で、断端陰性を目指すことは非常に重要です。前述のように、わが国のガイドライン上は、断端から 5mm 以内に癌がある場合を断端陽性としています。しかし、これは残存乳房への放射線照射を併用しない場合も含めての基準であり、照射を前提とするのであれば、欧米のように断端に癌が露出していないかぎり、断端は陰性と考えても良いはずです。

断端陽性と判明した場合、治療の選択肢としては、再手術(追加切除)、放射線照射(ブースト照射)の2つの選択肢があります。

追加切除については、適切に追加切除を行なったにもかかわらず、さらに断端陽性となる場合もあり、その場合は乳房切除(残存乳房切除)も選択肢として考慮されます。

ブースト照射については、その適応を慎重に検討しなければなりません。浸潤癌が露出している場合は追加切除が適当です。問題は、断端陽性でもっとも問題となる乳管内病変の露出です。局所的な乳管内進展の露出であれば、ブースト照射により局所コントロールが可能と考えられます。